



教育支援チーム「まつ」

「まつ」通信 No.11

震災地からの報告

2016年1月30日発行

今月の17日で、阪神大震災から21年目になりました。東日本大震災から間もなく5年目を迎えようとしています。自然界は何事もなかったように日常の摂理を繰り返し、穏やかな海は満面の笑みを湛えています。

被災地陸前高田市から災害復興と子どもの現状について報告致します。

今までの中心市街地のあった高田地区では、本年度から建設ができるよう商業、準商業地域のかさ上げの地盤整備も佳境に入り、コンパクトな町づくりを進める方向も固まってきました。

市内西側の地区では、120mの山林部を40mまで掘削して高台宅地にするための大事業を行うため設置された3kmの大型ベルトコンベヤーは昨年9月で役目を終えました。トラックだけの搬送では7、8年程度が見込まれる中、1年5カ月でその役割を果たし、今年3月で全て解体となります。また海岸線側では浸食目的とした海面高3mの第一線堤が整備され、12.5mの第二線堤も急ピッチで工事しております。両線堤の間に設けられる松林を作るための土盛りや養浜、水門整備などをしながら復興祈念公園整備に向けた工事も少しずつながら進んでいます。

被災者への住宅再建では、27団地、355戸の高台造成が終わりました。また11団地895戸の整備を計画している災害公営住宅は、5団地415戸分が完成しました。しかし入居がなかなか埋まらない災害公営住宅があります。長い間窮屈を余儀なくされた、不自由な仮設住宅ですが、それでも経済的な負担のない今の仮設暮らしを望んでいる方もおります。市内にはいまだ3千人を超える1300世帯以上の人が仮設住宅で暮らしています。入居率が63%以上で、5年目の仮設住宅暮らしを余儀なくされています。災害公営住宅の抽選に外れた人、高台での住宅建築を待つ人。状況は違っても「早くこの仮設を出たい」という強い願いがあるようです。仮設暮らしは、限界に達しているようで、ストレスによる健康被害や住民同士のトラブルも発生しているようです。一方、苦しい時わかち合ってきた近隣の住民は同志、友人となり、仮設住宅自治会を中心に強い絆ができました。災害公営住宅に入居が決まったものの新しい一步を踏み出しきれない方もおり、災害公営住宅での生活も決して順風満帆ではない状況が続いています。

「仕事もせずブラブラし、義援金で酒を飲み…」云々と誹謗、中傷を受ける人もいますが、一見楽に見えても、それぞれが様々な困難を強いられ、もがき苦しんでいます。被災者を、生活困窮者を、困難を抱える若者をどうみるか。当事者の自己責任に帰すか、社会責任を問うのか。どの様に本人の意思や気持ちに寄り添うかで支援の仕方や内容までが異

なってきます。

一方、県下の学校現場の中には公教育と学校教育方針を堅持する立場から、児童生徒がまわりから影響を受けてはいけないと配慮し、被災住民、避難所や仮設と学校の間壁を設け、接触を断ち切った学校もあると聞きます（陸前高田市ではないですが）。

学校教育の復興政策で被災地3県に共通していることは、「学力復興」です。津波被害の原状復帰が遅々として進まない状況下で、遅れた学力を取り戻し、全国水準に近づくための学力回復、教育振興の施策が行われてきました。教育行政にとって、子どもの健康、心身の状態の回復や安定よりも、学力向上という学力テストの点数、偏差値を上げる事なのででしょうか。

地域の復興・再生をかけた大変な時期だからこそ、老いも子どもも、地域も学校も日常よりさらに辛い苦しみを分かち合い、思いや願いを寄せ合って、絆を深めていく必要を感じます。地域にはそのための自然があり、地域の文化や独自の産業が存在し、共通の生活様式を育んできました。復興・再生の教育、学校はそこに依拠し、今こそ学力も知恵も地域との結びつきによるとらえ直しをすべきだと思います。被災を機に今必要なことは、地域を育み、地域に住む人々との絆を深め、人間関係を豊かに築く知恵や術を学び合うことではないでしょうか。震災前の学力の回復、頂上を目指す競争主義による復旧・復興ではありません。

（文責 佐々木善仁）

ご寄付をいただいた方（2015年5月から12月まで）

- ・ E d . ベンチャー 様
- ・ 新 沼 匠 様
- ・ 梅 木 秀 徳 様
- ・ 砂 田 武 嗣 様
- ・ アメ横表通商店街 様
- ・ 玄 海 椿 様



ご協力ありがとうございます。

教育支援チーム「まつ」

〒029-2207 陸前高田市小友町字茗荷 147-23 Cafe まつぼっくり
Tel/Fax:0192-56-3325 e-mail: teammatsu01@gmail.com

寄付を募っています。ご協力をお願いします。
銀行名：東北労働金庫 支店名：高田支店 口座番号：普通 5903255
口座名義：教育支援チーム「まつ」 代表 鈴木正彦
(キョウイクシエンチームマツ ダイヒョウ スズキマサヒコ)